

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成23年度:56-57.

1か月健診時の母乳率を上昇させる取り組み

阿部明美、蒔野恵子、竹内麻里子、鈴木彩花、石井沙苗、
菊地奈々子、澤田侑希、亀掛川真由美、瀧友紀子、相原
広美、原口真紀子、長屋 建

1か月健診時の母乳率を上昇させる取り組み

旭川医科大学病院 周産母子センター

○阿部明美 蒔野恵子 竹内麻里子 鈴木彩花
石井沙苗 菊地奈々子 澤田侑希 亀掛川真由美
瀧友紀子 相原広美
原口真紀子
新生児科 長屋建

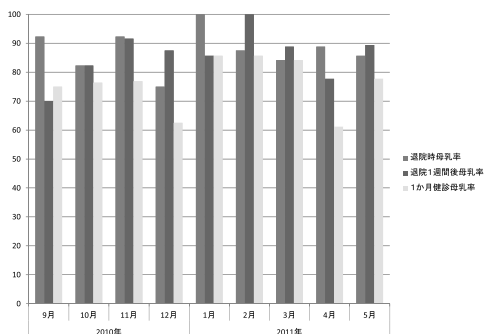
背景

- ・1か月健診時の母乳率が低下している。
- ・昨年度は1週間後健診を全例受診とした。

1週間後から1か月健診までの母乳育児支援を改善し、母乳率を上昇させる取り組みを行った。



母乳率の変遷



1週間健診後から1か月健診までに人工乳を補足した理由

人工乳を与えたことがあった日(生後日)	人工乳を与えた理由	【表から考えられること】
① 14日目	体重増加不目(看護師判断) *1週間健診から-144g	・退院後2~3週間の間で人工乳を与えている
② 33日目	理由記載なし	・母乳不足感が理由で人工乳を与えた人が半数である
③ 30日目	理由記載なし	・乳房の生理や赤ちゃんが泣く理由などの知識不足が母乳不足感を引き起こし、不要な人工乳を与えている
④ 31日目	口をバクバクさせて欲しそうだったから	・人工乳を与えた理由の記載がなく、継続したケアを行えなかったり、ケアを見直すことができない
⑤ 39日目	飲みすぎだと思いが泣くからあげた。 第1子(1歳8か月)に寝る前に直母をするため、その間にミルクを与えた	【改善案】
⑥ 29日目	泣くため次にミルクを勧められた	①入院中のカンファレンスを充実させる
⑦ 41日目	双胎で初回直母となったため	・入院中にカンファレンスを行い、退院後の母乳育児も含めて方向性をたてる
⑧ 41日目	理由記載なし	②退院指導を見直す
⑨ 21日目	なんとなく与えた	・母乳不足と母乳不足感の違いについて説明する
		・記録物の充実をはかり、継続したケアが行えるようにする
		③1か月健診までの母乳育児支援の変更

改善案① カンファレンスの充実

【産後0日目】:看護診断

- ・分娩助産者や次の日に受け持ったスタッフが母乳に関して看護計画を立案

【産後3日目】:カンファレンス

- ・必要なケア、指導について相談する。退院後の授乳方法について方向性をたてる。
- ・看護学生や助産師学生がいる時には学生を含めてカンファレンスを実施。

【産後5日目】:評価

- ・退院時に受け持ったスタッフや受け持ちが看護計画を評価する。

- ・カンファレンスによって
- ・情報を共有し、医師を含めてケアを統一することが出来た。
- ・学生に母乳育児支援方法について啓蒙活動する場となった。



改善案② 退院指導を見直す

【問題点】

- ・スタッフ間で指導する項目が統一されていない
- ・退院後の乳房や児の変化について知りたいと望んでいる母が多いが、現在の退院用パンフレットには書かれていない。
- ・先行の研究により、退院時の指導は1か月健診の時にはほとんどの母親が覚えていない状況であることが明らかとなっている。

【改善点】

- ・退院指導で説明する内容の統一をはかる
- ①乳房の生理 ②乳房・乳頭のトラブル ③児の啼泣について ④母乳不足と母乳不足感の違い ⑤電話相談
- ・退院指導は退院後から1週間健診までの内容について説明する
- ・新しくパンフレットを作成し、統一した指導ができるようにする。また、母親が繰り返し見直すことができるようにする
- ・退院時要約の記入方法をより細かな項目を設けて継続したケアが行えるようにする
- * 退院時要約: 退院時~1か月健診までの授乳状況や指導方法を記入している用紙

改善案③ 1か月健診までの母乳育児支援の変更

※現状としては、1週間健診から1か月健診までのフォローがあまりされていなかった。

退院後

【1週目】:健診(現行)

児の体重測定 乳房チェック 授乳・育児相談
電話相談についての説明、退院後3週間健診の予約

【2週目】:電話相談(新規)

:3週間健診までに不安なことがある人は電話をしてもらう

【3週目】:健診(新規)

児の体重測定 乳房チェック 授乳・育児相談



【4週目】:電話訪問(新規)

:3週間目の健診で介入があった事例は電話訪問
:3週間目の健診で介入がなかった事例は必要時
電話相談可

【1か月目】:健診(現行)

乳房チェック 授乳・育児相談

* 電話相談:母が病院へ必要時に電話する

* 電話訪問:病院から母へ電話する

～1か月健診までの母乳育児支援を 変更した3事例の経過～

	退院時	1週目	3週目	4週目	1か月健診
事例①	母乳	母乳 (健診)	母乳 (電話訪問)	電話相談 なし	母乳
事例②	母乳	母乳 (健診)	母乳 (健診)	電話相談 なし	母乳
事例③	母乳	母乳 (健診)	母乳 (健診)	電話相談 なし	母乳

⇒ 全例、母乳育児の確立に至った。

～1か月健診時の3事例へのアンケート結果～

Q1. 退院後3週間目に健診や電話訪問等があることで、母乳育児を続けるにあたって

自信につながったり、不安を解消したりできましたか？

はい:3人

・2人目ということもあるので

・体重を計ってもらえて安心することができた。

・ちょっとしたことでも心配なことが出てくるので、電話をかけづらい時にも健診があれば、

質問できるので健診があったことはよかった。

Q2. 受診する回数が多くなりますが、不都合な点はありましたか？

いいえ:2人 はい:授乳室の数について

Q3. 電話訪問を受けることに對して、不都合な点はありましたか？

・相談にのっていただけると、心強いと思う。

Q4. 電話相談を受け付けているという説明を受けて、不安を解消することに役立つと思

いましたか？

はい:3人

・一人目の子の場合はわからないことだらけなので

・電話はかけづらいけど、本当に困った時にはかけることができるのでよかった。

Q5. 何かご希望や、改善するべき点はありますか？

いいえ:3人

・特になし

考察

①産後3日目にカンファレンスを行うことで情報を共有でき、入院中から母に寄り添ったケアの統一が図れるようになった。また、学生への啓蒙活動につながった。

②退院時に母乳について全て話すのではなく、各健診時に随時話すことで、母親たちの不安を解消することができた。

③今回退院から2・3・4週目に健診や電話訪問を導入したことは、退院後の母乳育児支援としては有効だった。

④アンケートの「体重を計ってもらえて安心することができた。」という言葉からも、退院後2～3週目の介入は有効だった。

⑤電話相談や電話訪問を設けることで、母の不安を軽減して母乳育児を継続することに役立った。

まとめ

・1か月健診までの母乳育児支援を変更した3事例は、全例母乳育児が確立できた。

・退院後の母乳育児支援の取り組みを改善したことは有効だった。

⇒今回の改善策を引き続き継続して母乳育児支援を行っていく。